

# 2 我孫子宿と白樺派の文人等を訪ねる

## ①山一林組工場跡

1906(明治39)年に建設された生糸工場。志賀直哉の『和解』に登場。1938(昭和13)年より石橋生糸。現在は大型商業施設となり、その隣地の我孫子駅南口東公園には、史跡説明板や繭玉をイメージした車止めが設置され、近くにある駐車場には、1925(大正14)年建立の「蚕室塔」が残る。

## ③旧我孫子宿名主邸 (敷地内は非公開)

江戸時代、小熊家は我孫子宿の間屋兼名主。1831(天保2)年建築茅葺屋根の母屋。1665(寛文5)年以來の我孫子宿の人物帳、年貢などの古文書を保存。湖畔吟社の句会会場。

## ⑧三樹荘跡 (敷地内は非公開)

柳宗悦の邸宅跡で、邸内の椎の三大木が居宅名の由来で、叔父の嘉納が命名した。居住は1914(大正3)年から1921(大正10)年。民藝運動の始祖・宗教哲学者。兼子夫人は声楽家。イギリスの陶芸家バーナード・リーチが邸内の窯で作陶。後に陶芸家河村靖山も居住。

## ⑨嘉納治五郎別荘跡(天神山緑地)

講道館柔道を興す。東京高等師範学校長。我孫子が別荘地として注目されはじめた明治の末、天神山に別荘地を取得。甥の柳宗悦を我孫子に招く。IOC委員となり、1940(昭和15)年開催のオリンピックを東京に誘致するが、戦争で中止。白山に嘉納後楽農園を開く。

## ⑩杉村楚人冠邸園(市指定文化財)・楚人冠公園

杉村廣太郎(楚人冠)の住居跡。朝日新聞社記者・随筆家。我孫子では、俳句結社湖畔吟社を主宰。1912(明治45)年に別荘を建て、関東大震災を機に1924(大正13)年から1945(昭和20)年没まで在任。嘉納治五郎、村川堅固など別荘をもつ文人や地元の人々と幅広く交流。楚人冠邸近くにある楚人冠公園に河村靖山作陶の楚人冠句碑がたつ。邸園部分は、9:00~18:00(4月~9月)、9:00~16:30(10月~3月)、無料。記念館は、9:00~16:30、一般300円。休館日は月曜日。※月曜日祝日の場合、次の平日が休館日。

## ⑪志賀直哉邸跡書斎(市指定文化財)

柳宗悦の勧めで我孫子に住む。居住は1915(大正4)年から1923(大正12)年まで。武者小路や柳と交流。当所で『和解』『暗夜行路』などの作品を生む。現在は、当時の書斎を復元。毎週土曜と日曜日10:00~14:00一般公開あり(雨天除く)。



## 所要時間 徒歩2時間

★190Kcal消費

我孫子駅(南口)→①山一林組工場跡→②久寺家踏切跡→③旧我孫子宿名主邸→④回春堂跡→⑤本陣跡→⑥子之神道標・間屋場跡→⑦大光寺→⑧三樹荘跡→⑨嘉納治五郎別荘跡→⑩杉村楚人冠邸園・楚人冠公園→⑪志賀直哉邸跡書斎→⑫白樺文学館→⑬バーナード・リーチ碑→⑭血脇守之助碑→⑮文学の広場→我孫子駅(南口)

## ⑫白樺文学館

佐野力氏が建設した文学館。氏の寄贈により2009(平成21)年度から市が運営する。白樺派作家の原稿、書簡、書画や、民藝運動に関わった人々の作品を展示。地階で柳兼子のCDが聴ける。開館時間は、9:30~16:30。一般300円。休館日は月曜日。※月曜日祝日の場合、次の平日が休館日。

## ⑭血脇守之助碑

我孫子宿旅館「かど屋」を営む加藤家に生まれる。高山岡科医学院に学び、歯科医師となる。後に同院の経営を引き継ぎ、東京医科大学に発展させる。野口英世を物心両面から援助する。

## ⑮文学の広場

手賀沼ゆかりの文人(志賀直哉、武者小路実篤、バーナード・リーチほか)を紹介。斎藤茂吉の歌碑「春の雲かたよりゆきし屋つかた遠き真直に雁しづまりぬ」。手賀公園周辺の観光地図も設置。

